

公立高校入試併願制に向けて、定期試験・全教科100点満点と課題提出で内申書アップを！
入試当日まで『第一志望校合格』を目指し受験勉強を！

開倫塾

塾長 林明夫

Q：「公立高校入試の併願制」が始まるようですね。

A：（１）「公立高校入試の併願制」というのは、従来、公立高校は、１回の入試で、１つの高校しか受験できませんでしたが、これからは、１回の入試で、第一志望校に合格しない場合には、その入試の結果が、第二志望校、第三志望校でも用いられるようになるというものです。

○「公立高校入試併願制」は文科省により本格的に検討されていますが、いつからどのように導入するかは、各都道府県教育委員会の裁量にゆだねられています。ですから、いつ始まるかは都道府県により異なります。数年後の導入は、ほぼ確実と思われます。

（２）①今までは、公立高校の倍率が発表されると、「志望校変更」をする受験生がたくさんいましたが、「公立高校入試併願制」が始まると、「志望校変更」をせず、「第一志望校合格」を目指し、一心不乱に、入試当日まで、受験勉強に没頭できます。

②第一志望校に合格できなくても、アルゴリズム、自動集計で、第二志望校、第三志望校の合格が決まるからです。

③今までのような、公立高校不合格の場合に備えた、「私立高校」の受験が減ると思われます。

（３）①ただし、「公立高校入試併願制」が始まっても、「入試当日の学力試験」の他、「内申書」は今まで通り重視され、「点数化」され「加算」されます。

②「普段の授業の学習態度」や「定期試験で全教科 100 点満点」「全教科課題提出（ノートや問題集の提出）」「教科外教育活動」などの成果も、今まで同様に重視され、「点数化」されます。

③あまり無理することはありませんが、しっかりと、充実した中学校生活を心掛けてくださいね。

Q：公立高校入試併願制がスタートすると、中学１年生から、今まで以上に「定期試験対策勉強」を行う生徒が増え、「学力試験では、入試当日まで一心不乱に受験勉強」する受験生が増えるとお考えですか。

A：その通りです。

（１）①今までは、入学試験を受けるかなり前から、あの高校は偏差値が高いので、今の成績では合格しない。

②だから、安全圏の 1 ランク下の高校を受験し、どこの高校にも行けないという事態を避ける受験生が山ほどいました。

③その結果、今の実力で十分合格できる「安全圏」の高校を受験するため、受験勉強に身が入らない受験生が、数多く見られました。

(2) ①「公立高校入試併願制」がスタートすると中学生の様相は一変します。

②「第一志望校合格」を最後の最後まであきらめなくても済むのが、「公立高校入試併願制」ですから、「中学 1 年生」から「定期試験で全教科 100 点満点」を取り、内申点アップを目指す中学生が激増します。各教科の宿題や課題、問題集や授業ノートの提出も、まじめに行う生徒が激増します。

③あまり無理のない範囲で、教科外教育活動に積極的に参加する生徒も増えると考えます。

(3) ①「第一志望校に不合格」でも、「第二、第三志望校」など「公立高校の進学」ができるので、受験倍率をみて、おじけづき、「志望校変更」する受験生は激減。

②「第一志望校」合格を目指し、最後の最後、入試当日まで頑張る。

一心不乱に勉強に集中できますので、熱心な受験生ほど、入試直前であっても、学力は鰻登り（うなぎのぼり）に急上昇します。

③「自分の未来は自分で切り開く」「諦めたらおしまいの世界」に突入します。

Q：「公立高校入試併願制」を前にして、大切なことは何ですか。

A：(1) ①「自分の未来は自分で切り開く」。公立高校、私立高校の中から、「自分の未来を自分で切り開く」のに最もふさわしい高校を「自分の力で考える」。

②そして、その高校を「第一志望校」とすることです。

③政府は、「高校無償化」を政策として打ち出しましたので、「私立高校」も含め、「第一志望校」選択の幅が大きく広がり、「多様」になりました。

(2) ①自分は、どのような人生を歩みたいのか。現在 10 歳の方の半数が、105 歳まで生きながらえるといわれています。

②そうであるならば、現在 15 歳の中学 3 年生の方は、これから 90 年間どのような人生を歩みたいのか。

③どのような仕事、社会的活動、日常生活をし、自分として、よく生きることを目指したいのか。ゆっくり考える。

(3) ①「高校卒業生の約 6 割以上が 4 年制大学に進学、約 3 割が短期大学・専門学校・専修学校に進学」なさっていること。

②「大学無償化」や「大学生などへの奨学金の充実」の議論も、政府や国会で本格化していることも参考に。

③「高校卒業後」のことも視野に入れ、「第一志望校」をどこにするかを、自分の力で考える。

Q：「自分の力で考える」といっても、何をどう考えればよいのでしょうか。それを含め、最後に一言どうぞ。

A：(1) その通りですね。ヒントは、これからの世の中はどのようになるか、そこで求められる能力は何かです。

①これからの世の中は、第一に、「知識基盤社会」です。そこで求められるのは「知識・情

報・技術を相互作用的に用いる能力」です。

②第二に、「グローバル化社会」です。そこでは「多様な集団で活動する能力」が求められます。

③第三は、「課題山積社会」です。求められるのは「自律的に行動する能力」です。

(2) では、どのようにしたらこのような能力が身に着くか。

①自分のものになっている「ことばの数」「語彙数」を、計画的に増やすことです。意味のわからない「ことば」があったら、気持ちが悪いと考え、「辞書」でその都度調べ、ことばの数を計画的に増やす。「辞書」は「武士の刀」と同じです。

②新聞を、毎日 30 分以上読み、世の中のことを知る。日本や世界、地域で何がなぜ起きているかを知り、自分の力で考える。批判的思考能力を鍛えて考えるのに、新聞は役立ちます。

③読書を、毎日 30 分以上行う。休みの日には、一日中、これぞという本を、最後まで、何回か読み、「著者との時空を超えた対話に挑戦」。読書により「思慮深さ」「省察力」を身に着ける。

④「学校図書館」に毎日行き、「公共図書館」に毎週行き、「図書館を自分の居場所（サードスペース、ホッとできる場所）」の一つにする。

(3) ①スマホや、AI はあくまでも参考になる「情報ツール」として活用。

②「学校や開倫塾での授業や学習」に加え、「辞書・新聞・読書・図書館」に慣れ親しみ、読解力を身に着けながら「深く理解」し、「第一志望校」を考える。

③「学んだことを自分のことばでいえる（表現・説明できる）」を目指しましょう。

○「第一志望校合格」に向け、最後まであきらめない。では、がんばって！！